

	課題：児童の実態・学習状況、指導の実態	改善プラン：課題改善の方針・具体的手立て
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを伝えるのが苦手な児童が多い。 ○分かりやすい構成で文章を書くことを苦手とする児童が多い。 ○漢字の定着に課題が見られる。 ○読書が好きな児童もいるが、読む内容の偏りや読書量の個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ノートや学習用端末を活用したり、グループ活動の機会を確保したりするなどの手立てを取り入れる。 ☆文章を書く活動の日常化を図り、抵抗なく文章を書く技能を高める。書く活動に抵抗がある児童は、学習用端末を活用しながら文章を書く活動を行う。 ☆普段から文章を書くときは、既習漢字を用いることを意識させる。 ☆読書時間を確保するとともに、読み聞かせやブックトークなどで紹介していくだけでなく、自分たちで紹介し合えるようにする。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ○資料から集めた情報を分かりやすく整理したり、自分の言葉でまとめたりすることに苦手意識をもつ児童がいる。 ○文章資料から情報を正しく読み取る力が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆調べたことに合わせて効果的に表現できるように、手書きやICTを使い分けながら新聞等にまとめるなど、自分に合った方法を選択して学習できるようにする。 ☆ICTを積極的に活用し、動画や写真、グラフ等の視覚的な資料から情報を収集したり、理解を深めたりできるようにする。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ○問題文を理解し正確に読み取る力が弱い児童が多い。特に数量関係を適切に理解することに課題が見られる。 ○既習学習の定着率が低く、基本的な計算でつまずきがある児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆問題場面を図や数直線に表すなど、学習課題や数量関係を正確に捉えられるようにする。 ☆習熟度別クラスの実態に沿って指導していく。難易度別の計算プリントに取り組みせ、計算の速さや正確さの定着を図る。また、タブレットドリルなどを宿題や自習の場面で活用し、学習内容を反復して確実に定着できるようにしていく。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ○科学的な事象に対する関心が高く、実験・観察等学習に対する意欲をもって取り組み、問題を解決している児童が多い。 ○求められる結果を想像して、実験方法を考えたり、条件を設定したりする力が必要である。 ○問題文を理解し、正確に読み取る力が必要である。 ○表現力に個人差が見られるが、日常の経験から予想を立てたり、結果から分かることを考察したりする力が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆基礎学力の定着を図るために、本時の課題を明確にしてより具体的な発問をする。また、日常の経験から問題の予想を立てられるように指導する。 ☆学習スキル（課題→予想→実験→考察→振り返り→新たな課題）を身に付けられるような授業を展開する。 ☆写真や図などICTでの視覚的資料を活用し、理解の定着と技能の向上を図る。 ☆自分の考えを図と言葉で表現できるように指導する。また、必要に応じてICTを活用し、それらを表現できるように指導する。 ☆班活動を基本とし、意見交換しやすい環境を整えることで、多様な意見に触れることと、自信をもって意見を発表することができるように指導する。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ○表現力が豊かになってきている一方で、個人差が顕著になってきている。ルールはほぼ守れるので、技術的に不安の残る児童については、集団指導の中から個別対応をする工夫をする。ある一定の技術や表現力が身に付いてきた集団については、発展的な学習も充実させ、さらなるレベルアップを目指していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆表現活動については、技術や表現力に見られる個人差を生かしながら、全体で合わせたときに一体感が生まれるような指導を工夫する。また、児童の考えや思いを引き出せる発問や練習方法を進めて行く。さらに、ICTを活用することにより、個人差のある表現方法にも対応しながら、主体的に活動に参加できるような工夫を心掛ける。達成感を十分に味わえるようにするとともに、活動内容をこまめに見直し工夫をしていく。
図工	<ul style="list-style-type: none"> ○全体指導の理解に個人差があり、学習に必要な内容を理解できるよう、配慮が必要である。 ○自分の表したいことを見付けることや、どのように表すかについて考える力を伸ばしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆板書、書画カメラ、学習用端末などを活用し、視覚的に理解したり、後から確認したりできるよう配慮する。個別に声を掛け、支援する。 ☆試しながらつくることのできる題材や繰り返しやってみることのできる題材を計画的に設定する。ワークシートや学習用端末などを活用し、自分の思いや考えを確認したり深めたりできるようにする。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ○裁縫の学習においては技能に大きな個人差があった。 ○調理実習では、意欲的に取り組む児童が多く見られるが、生活経験から若干の技能の差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆取り組みやすい簡単な課題を連続的に出し抵抗感なく技能が向上できるよう工夫する。 ☆ICTを活用し、映像を見ながら技能の習得を図る。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ○単元によって、技能面で課題に個人差が見られる。 ○めあてを具体的に立てたり、自己の課題を見出し次時に生かしたりする力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆意図的・段階的に練習の仕方や効果的な場の作り方を提示し、児童が主体的に活動できる場面を作る。また、話し合いの場面を設け、互いに学び合いながら技能の向上を図るように指導する。 ☆学習カードやICTを活用して自分の体の動きなどを把握し振り返りができるように指導する。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ○価値項目を理解しているが理解にとどまっている児童が多く見られる。自己の振り返りに課題がある。 ○自分の考えをもつことはできるが、それを伝え合うことに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆自己の生活経験を想起できるような振り返りの視点を提示する。 ☆価値項目に迫るために、議論する場面を意図的に取り入れ、児童同士の意見の中から価値が見出されるようにする。学習用端末を活用した意見のやり取りを入れ、発言が苦手な児童の声も聴けるように工夫する。
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的に発表準備をしたり、アルファベット練習に取り組んだり、積極的に発音練習したりする児童が多い。 ○パフォーマンスに関して、相手を意識した話し方が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆児童が主体的に取り組めるように、具体的に課題を提示していく。その際、ICTを活用したり、絵カードを活用したりしていく。 ☆家庭学習を進められるように、タブレットで練習用のチャンツなどを配信し続けていく。また、授業でもどのように発音するか何度も確認できるように学習用端末で音声も付けてカードを配布する。